



## 市女性連盟 総会と講演

北茨城市女性連盟の総会が、6月26日、ふれあいセンターで開かれました。

県の看護協会会長の村田昌子氏が「美しく老いる」と題して講演しました。保健師の経験から具体的な事例を紹介し、「ボケ」の実態、対応の仕方を分かりやすく提示。自分自身がぼけないために、趣味をもち、人とつながろうと話されました。

「市長」私自身この制度には反対である。普通徴収の年金額の引き上げや保険料の軽減部分を多くするなど、運用面での改善を実施すべきと考える。国施策を注視していきたい。

# 「後期高齢者医療制度」には市長も反対を明言

第2回定例  
6月議会

鈴木やす子議員の一般質問から

6月12日におこなった鈴木やす子市議の一般質問の  
大要を報告します。

### 後期高齢医療の廃止要求

「鈴木やす子議員」今国会での審議で、後期高齢者保険制度での保険料調査がおこなわれ、以前の国保体系での保険料との比較がなされた。本市での調査結果はどうか。

年齢者のケースで1000円増えるのみで、他のケースでは減額となる。

「鈴木議員」政府の最初の説明は低所得者の方が低くなることだったが、現実には低所得者ほど高くなつた。今後とも負担増は必至である。医療保険を年齢で分けるということ自体に無理がある。中止・撤回しかない。また、市独自でも軽減策を講ずるべきである。



日本共産党  
北茨城市委員会  
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団  
ニュース

ご相談は  
お気軽に

市議会議員  
福田 明  
43-0468

市議会議員  
鈴木やす子  
42-2462

### 保健センターの充実

「鈴木議員」保健行政において大切なのは、高齢化しても元気でいられること。また病気になるっても早くに対処し人生のダメージがよ

り少なくすむようにすることである。健診が各保険者の責任にゆだねられ、市国保でも特定健診が始まった。受診率はどうか。

「市民福祉部長」最初の郷地区では、976人、33%の受診率で、昨年より約5割増となった。

「鈴木議員」個別の保健指導の強化で、より個人に即した内容となることが期待される。そのためにも保健行政の充実、人的な強化が必要と考える。その点から市長も視察された涌谷町での体制をどうみたか。

「市長」素晴らしいシステムだ。わが市でも、保健センターの業務を充実し、病院と併設という方向がよいと考える。

「鈴木議員」新しい市立病院の構想にあたって、保健業務との連携、とくにハード面での一体化も視野に入れているならば、今後の市保健行政は、人的配置も含め抜本強化を考えなければ

ならない。また、市民のなかで健康を軸とした新たなシステムの構築が必要だ。

### 小中学校の「適正」規模

「鈴木議員」この春、県教委が、小中学校の適正規模なる指針をだした。1学年

が、小学校で2クラス以上、中学校で3クラス以上というが、地域の実情をどれほど鑑みて決めたのか疑問である。すでに県は、再編整備と称して高校の統廃合を進めているが、地域の声を十分に聞くことをせず、強引にすすめてきた経緯がある。1人ひとりの子どもたちへの行き届いた教育とともに、地域の中心にもなりうる学校施設の充実こそが、父母や地域住民の願いである。県からの市への指導はどのようになっているのか。

「教育長」県職員が説明にきたが、それ以上の指導はない。

「市長」複式学級は避けるべきと考えている。第一に人口増、少子化対策が必須である。県指針の適正配置でなく、本市独自で適正配置は考えなくてはならない。

### 就学援助制度の周知

「鈴木議員」長引く不況の

もと、また負担増があいつぐなかで、貧困に直面せざるをえない子どもたちが生まれてきている。少しでも軽減されるよう就学援助制度の周知と、利用しやすい環境を要望する。

### 総合計画に住民の声を

「鈴木議員」第4次総合計画策定がおこなわれる。自分たちの街のことは自分たちでとの意識の高まりのなかで、まちづくり条例あるいは自治基本条例の制定がすすめられるようになった。当市での検討はいかがか。

「市長公室長」市民との協働を進めていく指針的なものを整理し、必要性が生じれば、制定に向けた取り組みを進めていきたい。

「鈴木議員」住民参加、情報公開などいっそう進めるべき。計画策定にあたり、住民主体のまちづくりのため、中間発表をふくめ広く情報を発信し、住民の意見聴取の機会をつくるべきである。

「市長」本市は現在でも開かれた部分が非常に多く、協働した市民参加型の行政になっていると認識している。自治基本条例は必要であると考えている。